

(6) 行政はボランティア等の組織が緊急的な対応を担ってくれている間（この間は90日を限度に考えるのが妥当）に長期的支援体制を準備し，恒久的に避難者と連携する。

図1-2-1は以上の考えを図示したものである。今後，何らかの災害において避難所が開設される場合，時間の経過と共に連携すべき組織を移行させることと，行政以外の組織には連携するための最適な「時期」と「期限」があるという認識を持つことが重要になるのではないだろうか。

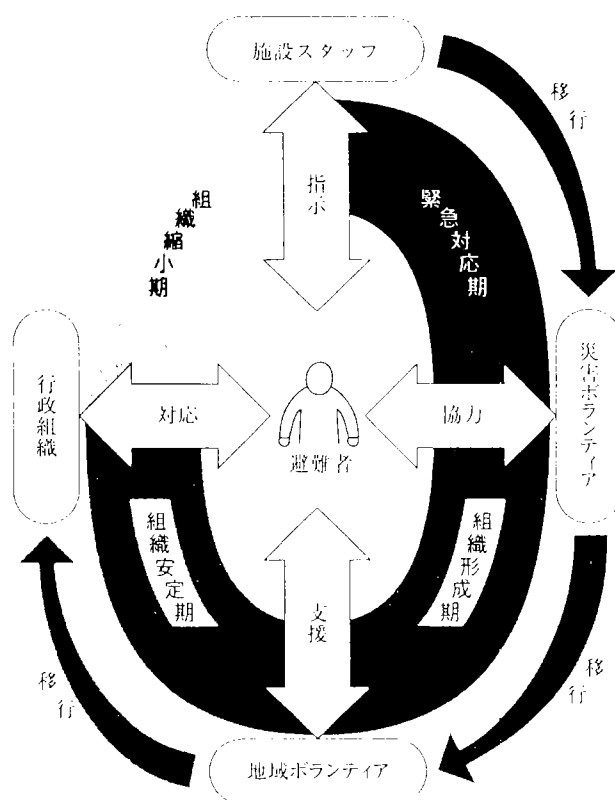


図1-2-1 避難所運営における組織化プロセスと連携組織の意向モデル  
(ループモデル)

### 第3項 避難所閉鎖時におけるトラブルの検討

阪神・淡路大震災の直後に生まれた避難所は，災害救助法に基づいて，1995年8月20日に一応の解散が行われた。それ以前には仮設住宅への移動が円滑に行われていないことがしきりに報道され，7月の段階においても，通勤できない，知り合いがいないなどの理由で避難所は半分もなくなればよいと予想されていた。しかし，8月20日当日，神戸市内には196カ所の避難所が継続し，6672人の避難者がいたものの，避難所の閉

鎖, 仮設住宅・待機所への移動は比較的スムーズに行われたようである。われわれが震災直後の1995年2月から継続的に調査・分析してきた避難所のリーダーたちは, 避難所閉鎖にあたってどのような役割を果たしたのであろうか。従来のさまざまな研究では, 避難所の「形成」には焦点が置かれていたが, その「解消」(用語としては不適切であるが)には目が向けられることが少なかったようである。

前項のループ・モデルでは, 解散期は避難所とリーダーそして行政組織との連携が必要であると考えられている。ここでは, 避難所閉鎖にあたってリーダーのとった行動を中心に分析する。

表1-2-2 避難所閉鎖時の問題／トラブル

避難所No	規模	Type	閉鎖日	問題／トラブル
1	大	自然	7月20日	特になし
3	小	自然	8/31	施設の鍵返さず
4	大	自然	8/20	食事の供給を切られる
6	大	自然	8/20	
7	大	仕事	8/23	若者の言動に問題
8	小	自然	4/16	他からの圧力大
11	中	自然	8/20	
12	中	仕事	8/15～	意欲をなくした人多い
13	大	仕事	8/31	様々あり。移動を誰が言うか
15	小	自発	7/31	
18	大	仕事	8/11～	
19	中	仕事	5/28	
20	小	自発	5/28	避難者の自律遅れ
24	小	自発	2/28	
27	大	選出	7末	
28	小	仕事	7/30	避難者からの強い抵抗
30	中	仕事	8/20	
31	小	自発	6月	特になし
33	中	選出	7下旬	
36	大	仕事	8/20	
37	大	自然	8/27	特になし

水田ら(1996)より

表1-2-2には避難所規模, リーダーのタイプ, および避難所閉鎖にあたっての問題点・リーダーとしての心構え・行動等が記入してある。

清水・秋山・浦・西道・竹村・田中・西川・福岡・松井・水田・宮戸(1996)の指摘によれば, 終期においては施設規模の大小, 就任動機に基づくリーダーのタイプのいかににかかわらず, ほぼ避難所は閉鎖されている。しかし, われわれが得た資料をさらに詳しく検討してみると, 閉鎖に関して以下の傾向を指摘できる。まず, 比較的早期に閉鎖した避難所(8, 19, 20, 24)は, 小, 中規模施設である。これは規模が小さいが故に機動力があったためと考えられる。他方, 大規模施設の学校は

公的機関であるが故に、簡単に閉鎖できなかつたこともこの理由として考えられるだろう。早期に閉鎖した避難所のリーダーの就任動機は自発的が多い。

一般的にみれば、閉鎖に関してはとりたてて問題がない避難所が多い。これは、今回の調査対象箇所限定すれば、行政の指導の効果というよりも、避難所リーダーの尽力によるところが大きい。とくに、閉鎖が近づく、避難所が集団として機能できない面があつたにもかかわらず、リーダーは公平性を重んじ、話し合いを行っている。これらの働きはPM理論（三隅,1966）によるM機能にあたる（1, 3, 19, 37）。また、リーダーが強力なP機能を発揮し、行政とのパイプ役を果たしたケースもある（4, 15, 20）。

避難所閉鎖にあたって若干の問題が述べられたところは、8, 20, 28などである。これらは、その施設に限定された固有の事情によるものであり、とりわけリーダーに問題の原因があるわけではない。むしろ、リーダーが1人で泥をかぶって、混乱を治めたと思われる場合がほとんどであった。ここでとくに注目したいのは、13のケースである。これは大規模の施設（学校）で、教頭がリーダーを勤めたケースである。われわれが調査した大規模の学校では、リーダーが仕事上である限り、比較的にスムーズに閉鎖が行われている（たとえば7, 36）。しかし、13のケースは自らは他の避難所に比べてましな方、と述べているにもかかわらず、とくに閉鎖が近づくにつれて避難者とトラブルが生じている。

この13のケースを7や36のそれらと比較することで閉鎖にともなう問題点を指摘したい。まず、13のケースでは、3月までは教頭であるリーダーを中心として職員が避難所を運営している。しかし、3月中旬に運営主体を地域ボランティアや避難者の自治組織に移行するにつれて問題が生じている。他の7や36のケースでは、避難所開設当初から、学校の運営は職員が行うが、避難所は地域の手で、という考えのもとに、開かれた学校をめざして、実行もしていた。つまり運営の機能を役割ごとに分担していた。しかし13のケースではこの役割の移行がうまくいかなかったと考えることができる。

われわれの調査した範囲内ではリーダーは開設から閉鎖まで、責任を持って文字通りリーダーシップを発揮していた。すべてのケースを詳細に報告することは不可能であるが、事例をもとにマニュアルを作成することが急務であり、それは地震の予知よりも学問的価値はある（調査対象者の言葉）と確信している。

現在われわれは、上述の分析をより精緻化すべく、第1次調査から第5次調査までの面接および質問紙調査で得た資料から主として避難所運営上のトラブルを抽出し、類型化し、そしてそれらを時系列的に整理している（表1-2-3, 表1-2-4, 図1-2-2）。また、われわれは、この時間的経過によるトラブルの変遷とそれらへのリーダーの対処行動とを対応

づけながら避難者の心理的過程についても考察を進めているところである。さらに、われわれは適切な避難所運営のあり方を、避難所リーダーの視点だけでなく避難者の視点からも検討することによって、避難所リーダーの運営マニュアルの内容をいっそう深めることができると考えている。

表1-2-3 トラブルの月刊報告件数

トラブルカテゴリー	1月	2月	3月	4月以降
1 運営組織	10	3	2	1
2 運営組織と避難者間のトラブル	0	0	2	0
3 外部組織の受け入れ	0	1	0	1
4 外部組織とのトラブル	0	0	2	0
5 本来機能と避難所との連携	4	3	3	2
6 避難所間の連絡	0	3	0	0
7 避難所間格差	2	1	0	0
8 避難所内一外での分配	2	6	0	0
9 新たな転入者	0	2	0	0
10 被災者間格差	0	4	2	0
11 物資の不足	4	3	0	0
12 物資の分配	4	8	0	3
13 余剰物資の処理	0	1	0	0
14 スペースの配分／力による奪取	5	3	0	0
15 スペースの再配分	0	0	7	0
16 運営方針上のトラブル	0	1	0	0
17 人間関係上のトラブル	0	4	0	0
18 犯罪	1	3	0	0
19 薬／シンナー	0	3	0	0
20 飲酒	2	6	3	3
21 騒音	0	3	0	0
22 いらだち	0	6	0	0
23 不安	0	6	4	0
24 甘え	0	12	5	5
25 周囲への適応	0	2	0	0
26 自立心の喪失	0	0	0	6
27 個別的配慮	0	4	0	0
28 子供の生活	2	5	0	0
29 ペットへの対応	0	3	0	0
30 トイレの維持	3	0	0	0
31 寒さ対策	0	4	0	0
32 夏対策	0	0	0	1
33 ボランティアへの対応	1	5	1	0
34 ボランティアの理解不足	0	4	0	0
35 避難者とボランティアとのトラブル	0	5	0	0
36 ボランティアへの不信	0	1	0	0
37 転出・移動	0	0	0	1
38 仮設住宅への入居	0	4	5	0
39 避難所解散への抵抗	0	0	0	5
40 テント生活者の存続	0	0	3	1
41 居残る避難者への非難	0	0	0	4

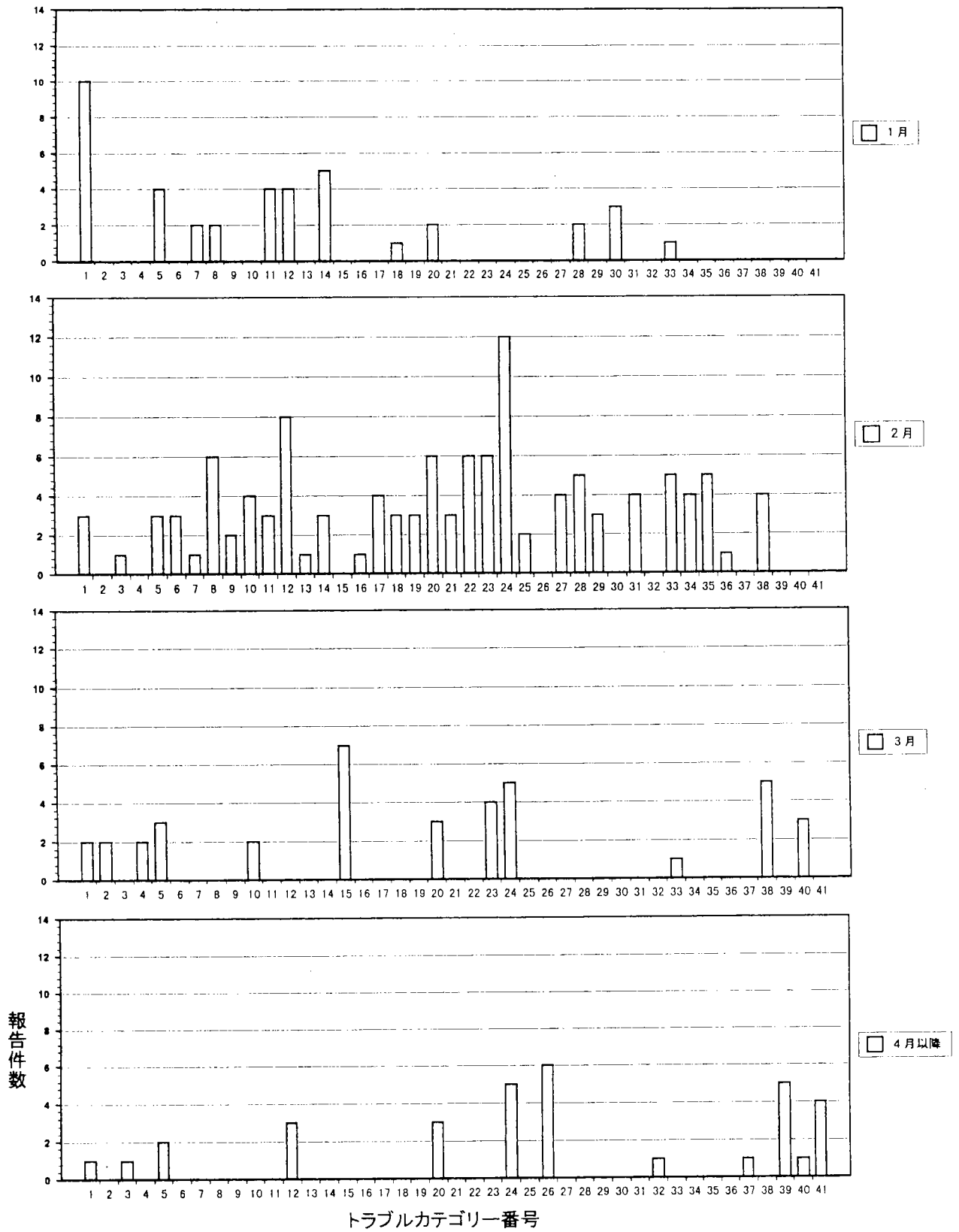


図1-2-2 トラブルの月刊報告件数

表1-2-4 トラブル報告の詳細

時期	NO	トラブルカテゴリー	トラブルの詳細
1月	1	運営組織	最初の数日はかなり混乱していた
	1	運営組織	はじめは役割分担ができなかった
	1	運営組織	避難者による自治組織は努力したができなかった
	1	運営組織	最初の2日間避難所の運営組織がなかった
	1	運営組織	大人が作業に積極的になりスタッフへの依存低下
	1	運営組織	避難所内での作業に支障(成人男性不在)
	1	運営組織	はじめの10日ほどは統制とれず
	1	運営組織	年寄りには動けないし家族を亡くした方も運営を手伝えない
	1	運営組織	避難者に食料到着時刻を聞かれ、不明と答えると怒鳴られた
	1	運営組織	職員室が戦場状態で混乱
	5	本来機能と避難所との連携	学校と避難者で指揮系統の混乱の可能性
	5	本来機能と避難所との連携	一部教師しか運営に関与しない
	5	本来機能と避難所との連携	学校再開時に部屋の移動でトラブル
	5	本来機能と避難所との連携	校務運営と避難所運営の二重責務
	7	避難所間格差	食べられる物、もらうものが違うとクレーム
	7	避難所間格差	避難施設によって利用の条件(火使用)違う
	8	避難所内一外での分配	避難所外の人が物資配給の列に並んでいて中の人とトラブル
	8	避難所内一外での分配	リーダーが勝手に物資を近隣に配ったのでトラブル
	11	物資の不足	避難所としての指定はあったが、備蓄は毛布一枚さえなかった
	11	物資の不足	食事の数が足りない
	11	物資の不足	食料が不足し、避難者に行き渡らなかった
	11	物資の不足	初期の段階で毛布が不足で不公平
	12	物資の分配	実際の人数以上に食料を確保する人がいた
	12	物資の分配	物資分配、ただならばすべてもらいたいという人がいた
	12	物資の分配	物資の分配難しく、被災者に不満が生じる
	12	物資の分配	力のある人が弱い者を押しつけるようとする
	14	スペースの配分	一部屋25人以上詰めさせるとトラブルが起きた
	14	スペースの配分	救護物資をカゴで奪い合う、老人子どもにしわ寄せ
	14	スペースの配分	確保する場所は早いもの順で決まった
	14	スペースの配分	被災者は寝るところもなく入るところもなく、不満
	14	スペースの配分	物資を運ぶために空間を空けたいが空けてくれず、殺気立っていた。
	18	犯罪	他所で婦女暴行事件あり
	20	飲酒	身内探しの酔っぱらいとリーダーがトラブル
20	飲酒	アルコール依存症者がトラブル	
28	子供の生活	子どもにとっては勉強の場を失う	
28	子供の生活	避難所で子どもが騒げなかった	
30	トイレの維持	トイレの仕事が大変	
30	トイレの維持	トイレの汚れ	
30	トイレの維持	トイレの問題	
33	ボランティアへの対応	1日200人くらい押し掛け、リーダーのいないボランティアの対応に困った	
2月	1	運営組織	最初の2、3日はパニック状態
	1	運営組織	有志による自治会と他の避難者との間で対立の芽生え
	1	運営組織	避難所が閉鎖とし、朝食の配給と夕食の炊き出しが仕事の中心
	3	外部組織の受け入れ	自衛隊を受け入れるため運動場の自動車の整理が必要になった
	5	本来機能と避難所との連携	学校が音頭をとるのか、被災者が自主的にやっていくのかが問題となる
	5	本来機能と避難所との連携	学校にも運営しろと言う要求があった
	5	本来機能と避難所との連携	教室を3つ授業再開のために空けた
	6	避難所間の連絡	管理運営委員が連絡不通
	6	避難所間の連絡	避難所間の連絡がない
	6	避難所間の連絡	校長会で詳しい連絡がない
	7	避難所間格差	報道機関の入ったところに物資が集中
	8	避難所内一外での分配	物資を持ち出した人がいた
	8	避難所内一外での分配	テント村の人が、避難所に物資があって自分たちにはないことを怒っていた
	8	避難所内一外での分配	避難所以外の人が食事を取りに来る
	8	避難所内一外での分配	自力で生活できる人がティッシュやカイロ、下着を「ただや」と持っていき、困る
	8	避難所内一外での分配	よい食料が来ると近隣で情報を聞いた人が取りに来て、困る
	8	避難所内一外での分配	避難所が飯場がわりになっている
	9	新たな転入者	他所より避難者が加わる
	9	新たな転入者	先住者が新たな避難者の参入に反対
	10	被災者間格差	校内と校外の避難者の間に差が出てきた
	10	被災者間格差	自宅に居る人居れない人、仕事ある人ない人との間で対立
	10	被災者間格差	帰ろうと思えば帰れる人でも、ただ、食べられるから居るといふ人もいる
	10	被災者間格差	完全に家を失った人に対する接し方が難しかった
	11	物資の不足	ドライアイスがなくて困った
	11	物資の不足	避難所には消化器がなく、避難通路が確保されず、非常口がふさがっている
	11	物資の不足	電気コンロやポットなどでブレーカーが下りた
12	物資の分配	衣類や食料の配布に不公平感が発生	
12	物資の分配	物資の分配の不公平に対する不満	
12	物資の分配	近所づきあいの関係で物資を余分にあげたり公平な分配ができず、トラブルが生じた	
12	物資の分配	トラブルを生んだ、避難所の倍の食事を持っていくても、足りなくなることがあった	
12	物資の分配	食事が足りなくなり、物資分配でトラブル	
12	物資の分配	新しい下着や袋詰めした物を取り合いパニック	
12	物資の分配	避難者数が多い避難所では物資の取り込みや面積に関するトラブルも起こった	
12	物資の分配	部屋のテレビの有無によるトラブル	
13	余剰物資の処理	古着を含む物資が余って困った	
14	スペースの配分	1ヶ月間は避難者一人あたり2畳でずんだが、その後は広くする必要があった	
14	スペースの配分	一つの部屋に数世帯が避難	
14	スペースの配分	避難者の人数が多かった	
16	運営方針上のトラブル	ボランティアと先生との間の揉み合わせが難しい	
17	人間関係上のトラブル	人間関係のトラブル	
17	人間関係上のトラブル	人間関係が露骨に出る	
17	人間関係上のトラブル	11時までの約束についてトラブル	
17	人間関係上のトラブル	22時の消灯時間で文句、全部消せ、いや点ける	
18	犯罪	財布の盗難	
18	犯罪	多くの人が来て盗難があったりや不審者がいた	
18	犯罪	物が無くなったり、夜中に叫びだす人などがいる	
19	薬/シンナー	シンナーが便所に落ちていた	
19	薬/シンナー	一部にシンナーを吸って暴れる者がいた	
19	薬/シンナー	17~18歳の若者が部屋の中でシンナーを吸引した	

20	飲酒	アルコール依存の人がたき火
20	飲酒	酔っぱらいやアル中、夜ほえて歩く老人がいた
20	飲酒	夫を亡くした女性が外で酒を飲んできて教室でトラブルを起こした
20	飲酒	酒によるトラブル
20	飲酒	酔っぱらいが周囲の避難者とトラブルを起こす
20	飲酒	アルコールを飲んでボランティアにからむ
21	騒音	17～18歳の若者が部屋の中でギターを鳴らして騒いだ
21	騒音	騒音を出したり、ルールを守らない者がいた
21	騒音	体育館で大きな音で音楽を鳴らす利己的な大人がいた
22	いらだち	口論があった
22	いらだち	避難者がいらだっている
22	いらだち	ストレスが溜まり、たまに言い合いもある
22	いらだち	避難者が歌を受け入れる気持ちにならない
22	いらだち	避難者は疲労のためイライラしてきている
22	いらだち	避難者にはストレスがある
23	不安	避難者に「追い出されるのか」というデマが広がった
23	不安	精神的にみな不安定で歌を受け入れる気にならず
23	不安	避難所生活に不安
23	不安	避難所から追い出されるのではないかと不安
23	不安	健康状態や将来の生活について不安が高まっている
23	不安	震災直後は10分しか話すことが出来なかったが、今は話し相手を求めている(将来への不安)
24	甘え	余裕が出てくるとまがまが増える
24	甘え	少しずつ時間がたつにつれ文句を言う人が出てきた
24	甘え	若い者が働かない
24	甘え	避難者の中にわがままを言う人がいる
24	甘え	被災者に物資がもらえて当たり前という風潮が出来つつある
24	甘え	大人に不満とわがまが出た
24	甘え	被災者が手を挙げればボランティアが何でもしてくれたので受動的になった
24	甘え	ゴミの分別や始末をしてくれない
24	甘え	校庭のテントの人が色々わがままな要求をする
24	甘え	日常生活での軋轢、トイレ掃除しない、消灯時間守らない
24	甘え	わがまま(煙草、トイレの水くみ)もでたが怒ったり話し合ったりした
24	甘え	自立が進まない
24	甘え	周りとなじめなかった
25	周囲への対応	1人2人で来ているお年寄りに負い目があり、遠慮していた
25	周囲への対応	受験生がいる
27	個別的配慮	お年寄りのトイレの問題
27	個別的配慮	子供に不安が見られた
28	子供の生活	子供に不安が見られた
28	子供の生活	子供たちがたばこを吸ったり、解体現場で金目のものを探したり、言葉が荒れてくるのが目に見えてきた
28	子供の生活	子供たちは避難生活中、廊下を静かに歩いた。子供なりに気遣いをしていたようだ
28	子供の生活	子どもが取材に追い回されて逃げ回るということがあった
29	ペットへの対応	ペットを飼っている
29	ペットへの対応	ペットの問題があった
29	ペットへの対応	ペットの部屋を部屋に入れる人がいた
31	寒さ対策	暖房の要求があった
31	寒さ対策	寒さ対策
31	寒さ対策	インフルエンザが流行
31	寒さ対策	風邪が大流行
33	ボランティアへの対応	ボランティアの対応にいらん苦勞をした
33	ボランティアへの対応	そのまま帰らせる訳にはいかないで困る
33	ボランティアへの対応	東京の方の大学の先生が学生を連れてカウンセリングをしにきた
33	ボランティアへの対応	説明に時間をとられた
33	ボランティアへの対応	いきなり数人できてボランティアをさせろという人もいて、時々とまどった
34	ボランティアの理解不足	散髪ボランティアとして入ったはずなのに交通費を請求した
34	ボランティアの理解不足	カラオケやボーリングに行く
34	ボランティアの理解不足	ボランティアへの理解不足、ボラが掃除するすぐ横でゴミを捨てる
34	ボランティアの理解不足	若いボランティアが夜、ギターを鳴らしたり、おしゃべりをしたりして、避難者から苦情があった
35	避難者とボランティアとのトラブル	歌うボランティアと避難者自治会との間でトラブル
35	避難者とボランティアとのトラブル	炊き出しボラが「もう鍋くらいあるでしょ」と言い、避難者とトラブル
35	避難者とボランティアとのトラブル	不安ゆえにボランティアとトラブルあり
35	避難者とボランティアとのトラブル	ボランティアと自治会とのトラブル
35	避難者とボランティアとのトラブル	避難者とボランティアとのトラブル
36	ボランティアへの不信	ボランティアへの不信感(金をもらっているのでは?)
38	仮設住宅への入居	なかなか当たらない
38	仮設住宅への入居	仮設住宅が高齢者のコロニーになった、外からしかボランティアが入らず、サポートする人が居ない
38	仮設住宅への入居	仮設にはいるとみんなから忘れられ、救援物資が来なくなるかと心配
38	仮設住宅への入居	年寄り1人の方は住居探しが大変だった
41	居残る避難者への非難	一人だけ8/19までおり、色々問題があった

3月	1	運営組織	学生ボランティアの撤退と報道関係での危機感
	1	運営組織	避難所の自治会が弱い
	2	運営組織と避難者間のトラブル	集団生活の秩序が保てなくなり本部解散
	2	運営組織と避難者間のトラブル	3月15日本部に対する非難の大騒ぎがあった
	4	外部組織とのトラブル	まだ届いていない物資の先取り放送をされ避難者とのトラブルの原因になった
	4	外部組織とのトラブル	神戸市の住宅情報が不十分
	5	本来機能と避難所との連携	教員スタッフの負担大、校長体調崩し教頭喉痛
	5	本来機能と避難所との連携	教師が教育に重点、避難者自治会を作る。分配は自分たちで。
	5	本来機能と避難所との連携	学校の再開で避難所リーダーの教師が教育に重点
	10	被災者間格差	避難者各自に考え方の違いが出ていた(自営、会社員、労働者、老人)
	10	被災者間格差	住む場所の目処が付いてくる人とそうでない人とがでてくる
	15	スペースの再配分	場所は早いもの勝ち
	15	スペースの再配分	居住していた教室を空けさせられるというデマが流れる
	15	スペースの再配分	体育館からの移動を拒否、「追い出す気か」
	15	スペースの再配分	体育館から教室への移動でとげとげしい雰囲気
	15	スペースの再配分	移動を渋る人がいた
	15	スペースの再配分	教室確保のための部屋移動でトラブル
	15	スペースの再配分	避難所内で利用できるスペース縮小、対立
	20	飲酒	精神面で不安定。酔った人の乱闘
	20	飲酒	アル中の人が入院
	20	飲酒	酒を飲んで荒れ、大喧嘩
	23	不安	個々の状況から来るストレスや見通しのない生活など
	23	不安	避難者に不安感

23	不安	避難者が疑心暗鬼になっている
23	不安	長期化に伴うストレス
24	甘え	避難者個々の要求が多様化
24	甘え	個人の荷物を避難所に持ち込む人が出てきた
24	甘え	若者が我が物顔の振る舞い(携帯、煙草、夜に大声、麻雀)に不愉快
24	甘え	テントや避難所に居残る
24	甘え	69の人、水道、税金がただなので、今でも公園のテントにいる
34	ボランティアの理解不足	ボランティアの中には考え違いをしている者もいた
38	仮設住宅への入居	場所が不便なため当選を辞退
38	仮設住宅への入居	仮設当選辞退者を非難する
38	仮設住宅への入居	仮設への入居を辞退する人がいる
38	仮設住宅への入居	外れた人は、仮設当選者に何も言わないが、思いは複雑
38	仮設住宅への入居	仮設住宅が不便なところしか出来ない
40	テント生活者の存続	テント生活者は8月まで、その後公園内施設へ
40	テント生活者の存続	公園内施設(冷房付)のカギを渡すが返却なし。
40	テント生活者の存続	公園内施設(暖房付)の鍵を返却しない
4月以降	1 運営組織	運営の引継ぎうまく行かず、物資の配布にトラブル
	4 外部組織とのトラブル	避難者と行政との食い違い
	5 本来機能と避難所との連携	避難生活長期化し、卒業式も出来ず
	5 本来機能と避難所との連携	リーダーが呼びかけ、教室の明け渡しを説得
	12 物資の分配	各自のエゴ、配給物資への文句
	12 物資の分配	避難所以外の切り捨て、仮設未入居者の確認
	12 物資の分配	避難所の被災者以外への食事打ち切り
	20 飲酒	避難所内で飲酒、喫煙
	20 飲酒	喧嘩、ペットの持ち込み、酔っぱらい、痴呆老人の徘徊、長期不在者、結核患者の発生
	20 飲酒	心に問題のある人(アル中)、自立への意欲をなくした人がいる
	24 甘え	被災者も日が経つほどわがままになる
	24 甘え	むき出しの人間関係が見られた
	24 甘え	待機所に移ることを拒否し行政も対処出来ず
	24 甘え	行政に依存する
	24 甘え	日常の買い物等、便利のよい仮設を選ぶ
	26 自立心の喪失	自立を妨げた
	26 自立心の喪失	マスコミは避難者を「神様」にしてしまった
	26 自立心の喪失	自立できる人が長期まで残っていた
	26 自立心の喪失	一部の被災者が自立精神をなくす
	26 自立心の喪失	仮設住宅に申し込まない人がいる
	26 自立心の喪失	自立できない人はわずか、ボランティア、行政、マスコミ、自立を促すべき
	32 夏対策	蚊、暑さ、食中毒などの夏対策が大変だった
	37 転出・移動	他所や自宅への移動
	39 避難所解散への抵抗	解散に向けてのメッセージに避難者からの反発があった
	39 避難所解散への抵抗	解散に対して周辺の他避難所にいる被災者やボランティアネットから抗議あり
	39 避難所解散への抵抗	複数で行政相手への共闘を要求に来る
	39 避難所解散への抵抗	市を批判するのは神戸市の単身者に多かった
	39 避難所解散への抵抗	解消時に困ったことは市外の人が大勢来たことである。大半は神戸市東灘区の人であった
	40 テント生活者の存続	公園のテントはなかなか退去しなかった
	41 居残る避難者への非難	居残った家族が他の大人から差別を受ける
	41 居残る避難者への非難	自立できるのに居続ける人への不満が上がった
	41 居残る避難者への非難	地域住民の目が、避難者に対して冷たくなった

## 脚注

本節の第1項は清水ら(1996)、第2項は西道ら(1996)、そして第3項は水田ら(1996)に、西川と西道が加筆したものである。